



(ファとシの音板を外し、5音階に)



## オルフ楽器の木琴

カール・オルフ (Carl Orff, 1895-1982) はドイツの作曲家であり、〈オルフ・シュールヴェルク〉と呼ばれる音楽教育メソッドを通して音楽教育家としても国際的な影響を与えた人物である。オルフ楽器は彼の音楽教育のための教育用楽器として世界的によく知られている。

オルフの音楽教育の理念と方法は、1950年代に出版された『オルフ・シュールヴェルク：子どものための音楽』という5巻からなる教育用作品に加え、青少年のための作品や器楽演奏のための作品などにも反映されているとされ、一般的にはそれらを総称して〈オルフ・シュールヴェルク〉と呼ぶ。オルフの音楽教育の特徴は次の8点と言われる(藤井康之 2004)。(1) 子どもの遊びを出発点とする音楽教育、(2) 母国語を基盤とするリズム練習の重視、(3) 音階の系統性の重視、(4) 中世音楽に見られる音楽技法による作曲、(5) 子どもが演奏する楽器の精選、(6) 〈言葉〉〈動き〉〈音楽〉の合一、(7) 即興を中心とする音楽活動、(8) アンサンブル主体の演奏形態。

オルフの音楽教育で用いられる楽器には、リコーダー、木琴、鉄琴、小ティンパニなどが挙げられるが、それらオルフ楽器の中でも最も特徴的とされ有名なものが、木琴と鉄琴を含む音板打楽器である。オルフ楽器の音板打楽器は、その音板を自由に取り外すことができる点に特徴がある。この特徴により、オルフの音楽教育が重視する「(3)音階の系統性」を意識しながら、「(7)即興を中心とする音楽活動」を実現する。例えば「ドレミファソラシ」の7音から四つの音板を取り外して「ミ」と「ソ」と「ラ」の音板だけにし、この3音に合う伴奏をつけて子どもたちに即興演奏をさせる。演奏されるべき音だけがそこにあるため、低年齢の子どもたちでも遊びの延長として楽しく容易に即興演奏を経験できるのである。年齢や学習段階に応じて「ドミソラ」(4音)→「ドレミソラ」(5音)のように音階の構成音を増やし、最終的に西洋の長音階「ドレミファソラシ」へと導いていくことができる。

こうした教育上のねらいを実現する構造的特徴のみならず、音の美しさもオルフ楽器の優れた点である。優しく愛らしい木琴の音色と、真っ直ぐに余韻が伸びる鉄琴に、リコーダーの素朴な音色が合わさるアンサンブルは、簡易ながらも十分に芸術的な雰囲気その場にもたらし、子どもたちに芸術としての質の高い音楽経験をもたらすのである。

参考文献：藤井康之 (2004) 「オルフの音楽教育：【定義】」日本音楽教育学会編『日本音楽教育事典』音楽之友社、98頁。